

今井壯一先生を偲ぶ

日本原生生物学会会長の今井壯一先生（日本獣医生命科学大学名誉教授）は、去る 5 月 5 日 22 時 10 分頃、入院先の東京女子医大病院にて、67 歳という若さで逝去されました。昨年の仙台での大会でもお元気で学会長挨拶をされておられただけに、当日、突然このお知らせが学会の電子メールで届いた時には、驚き、言葉を失いました。学会にとっては、現学会長の逝去というできごとは痛手であり、あまりにも早いご逝去を悼むとともにかけがえのない方を失った悲しみは深い。

今井先生は、1948 年 3 月 10 日東京都に生まれ、都立小石川高校、東京学芸大学教育学部を卒業、同大学大学院教育学研究科修士課程を経て、東北大学大学院農学研究科博士課程に編入学し、1976 年課程を修了（農学博士）しています。博士取得後、日本獣医畜産大学獣医畜産学部に助手として赴任し、その後、1981 年に専任講師、1986 年に助教授となり、1990 年からは 23 年間教授として獣医寄生虫学・衛生動物学を担当され、日本獣医生命科学大学（日本獣医畜産大学から改称）2013 年定年退職と同時に特任教授、名誉教授になっておられます。この間、東京学芸大学や東京大学、宮崎大学、岩手大学、国立ザンビア大学など幾多の機関で非常勤講師や客員教授も勤め、広く教育に尽力され、専門分野の人材育成に努められました。

先生は、東北大学大学院でウシのルーメン（第 1 胃）内の絨毛虫類構成の解明に着手して以来、国内の反芻動物のみならず、東南アジア諸地域、中国、アフリカ、カナダなどの各種反芻動物ならびに馬などの単胃草食動物も含む大型草食動物の消化管内絨毛虫相を対象として、分類学・系統学的研究で大きな成果をあげられ、1994 年には、日本原生動物学会賞を受賞されました。「ルーメン内絨毛虫の分類学的研究」における業績でした。

先生は、国際会議で海外に出かけるときには、いつも固定液を入れたポリ瓶を持参して、草食動物のフンを収集しておられました。ベルリンでの国際原生動物学会の時も、すでに寄り道して採取してきたことを語られていたことを思い出します。今井先生を想う時、浮かぶのは穏やかで柔和なお人柄です。感情をむき出しにするような姿を見たことはありません。通算 9 年間の原生動物学会評議員のときも、冷静で説得力のある発言が信頼を集めていました。多くの学協会が細分化されてきている中で、研究対象を「原生動物」からさらに広く「原生生物」とする「日本原生生物学会」への名称変更が昨年（2014 年）行われました。学会名称の変更という難しい課題が合意を得たのは、それまでの議論の積み重ねがあったとはいえ、2012 年会長に選出された今井先生の誰をも引き入れる冷静なリーダーシップがあつてこそ成し得たことでした。会長就任挨拶では、「原生動物を扱う研究分野は、理学系のみならず医学系、獣医学系、畜産学系、水産学系、工学系などきわめて多岐にわたっています。多くの研究者が学部、学系などに深く関連する学会を主学会とする中で、本学会のように分野をまたいだ広範な領域をカバーする学会は、普段交流のあまりない研究者どうしの交流の場としての大きな特徴もっています」と述べています。今井先生の研究分野は、まさにこの言葉を体現するものでした。原著論文（119）、著書（60）、訳書（21）、総説（7）、解説文（35）は、原生動物からペット動物の疾病にいたるまで、専門から一般啓蒙向けまで、極めて多数かつ多岐に亘るものでした。多くの専門著書に分担執筆されていることは、今井先生の研究活動が活発で協力者が広く沢山おられたことを、科学者として代わり得ない人材だったことを、改めて実感させられます。先生は、日本獣医寄生虫学会の立ち上げにも尽力され、2000 年に初代会長も務めておられました。



ありし日の今井壯一先生

18 年程前、卒業生の結婚式で仲人をされる今井先生。

任期中の急逝は、ご本人も残念に思われていたかもしれません。もっともっと後進の指導・原生生物の世界を知らしめる研究活動に参加し続けていただきたかった。しかしながら、今は、ありがとうございましたという感謝しかありません。3月には奥様とケニアへお出かけだったと伺いました。闘病を傍らにしながらもいつも前向きで濃い人生をしなやかに全うされた、と確信いたします。先生の精神的な強さ、穏やかな笑顔の向こうの意志の強さを想います。葬儀告別式の5月11日は、とても暑い日でした。祭壇のお写真は私達がよく知っている穏やかなお顔の今井壯一先生でした。11月6日から開催される第48回日本原生動物学会大会では、今井先生のメモリアルシンポジウムが企画されています。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

(筑波大学名誉教授 高橋 三保子)

今井壯一先生の略歴

1948年3月10日	東京都文京区に生まれる
1970年3月	東京学芸大学教育学部特別教科教員養成課程理科学卒業
1976年3月	東北大学大学院農学研究科博士課程修了(農学博士)
1976年4月	東北大学大学院農学研究科研究生
1976年12月	日本獣医畜産大学獣医畜産学部助手
1981年4月	日本獣医畜産大学獣医畜産学部専任講師
1982年1月	New York Academy of Sciences 会員
1986年4月	日本獣医畜産大学獣医畜産学部助教授
1987年4月	東京大学農学部非常勤講師
1987年8月	中国内蒙古自治区畜牧獣医学研究所客員研究員
1990年12月	国立ザンビア大学獣医学部客員教授
1992年4月	日本獣医畜産大学獣医畜産学部教授
1994年9月	日本原生動物学会賞受賞
1997年10月	農林水産省獣医事審議会特別委員
1999年2月	農林水産省国際プロジェクト研究評価委員
1999年11月	厚生省中央薬事審議会臨時委員
2000~2006年	日本獣医寄生虫学会会長
2003年11月	第36回日本原生動物学会大会大会長
2006年4月	日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究科長
2012年11月 ~	日本原生動物学会(現・日本原生動物学会)会長
2013年3月	日本獣医生命科学大学定年退職
2013年4月	日本獣医生命科学大学名誉教授
2015年5月5日	逝去 享年67歳
2015年5月	叙従五位, 叙瑞宝小綬章